

熊本県立荒尾支援学校進路便り 3月号 (通巻N0. 23)

わーく&らifu

平成30年3月9日 進路指導部 発行

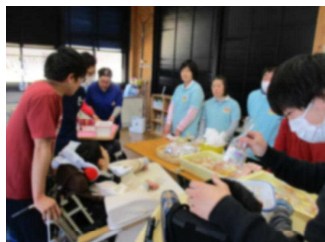
■CONTENTS■

★トピック 花梨の家「わがんせ」出張販売～重複障がい学級買い物学習～
★福祉サービス事業所説明会総括

花梨の家「わがんせ」出張販売～重複障がい学級 買い物学習～

花梨の家「わがんせ」は、海陽中学校裏に生活介護事業所、本村交差点にB型事業所を運営する多機能型福祉サービス事業所です。本校OB保護者（宮崎施設長）が設立された事業所ということもあり、たくさんの本校卒業生が活躍されています。

重複障がい学級では2月9日（金）に、わがんせの利用者さんをお招きしてパンの出張販売会を実施しました。わがんせのB型事業所「にこにこわがんせ」では、普段からケーキやパンの製造、配達をされていますが、今回は、本校卒業生を中心にして訪問販売に来ていただきました。その出張販売会の様子をご紹介します。



◆小・中学部の学習のようす

事前学習では、メニュー表と予算を照らし合わせながら、好きなパンを選びました。当日は、利用者の方とやりとりをしながら事前に選んだパンを購入することができました。お金のやりとりをする時に、「これを買えばおつり0円だ。」と言って、自分でおつりを計算する生徒もいました。とても充実した買い物学習になりました。



◆高等部の学習のようす

高等部では、買い物学習に加えて進路学習の内容にも取り組みました。事前学習では、本校卒業生の利用者の方に”社会人になったの生活”についての質問を考えました。

当日、利用者の方に「やりがいは何ですか？」と質問をすると「お客さんの笑顔が見られるところです。パンを作るのが好きです。」と答えてくれました。また、「休日

は何をしていますか？」と質問すると「おでかけをするのが好きで、買い物やドライブに行きます。」と答えてくれました。これを聞いた生徒たちは、卒業後の生活が楽しみになったようでした。

◆おわりに

今回の出張販売は、本校生徒のみならず、わがんせのみなさんにも大変意義深いものでした。たくさんの卒業生が販売に志願し、行けた人も行けなかった人も「次はいつ？」と、継続を楽しみにされていたとのことです。いわゆる、WIN・WINだったこの取組。宮崎施設長も「是非続けていきたいものですね。」と笑顔で語っておられました。

いろいろな形で、卒業生の顔が見える学校でありたいものですね。

福祉サービス事業所説明会総括

本校では、保護者向け進路情報の提供を積極的に推進しています。

昨年度は「進路だより」の発行数・内容の充実に努め、本年度は「進路だより」の発行数は確保しながら、新規事業として「福祉サービス事業所説明会」を実施しました。

これは保護者の皆様のご意見・ご感想の中で特に多かった「**進路先の具体的な情報を知りたい**」に応える場として実施したものです。

本年度は下表の通り26事業所の説明をのべ94人の保護者が聞きました。この説明会は学校とPTAが連携して企画したもので、年間を通じて児童生徒の居住地毎に実施する県内でも類を見ない取組でした。

◆95%が満足

参加者アンケートの結果、下グラフのとおり5段階で「満足」以上の段階が95%でした。

◆中学部の高参加率

参加人数では高等部が一番多いですが、参加率にすると中学部が高く、進路についての情報は、早期から関心が高いものであることが窺えます。

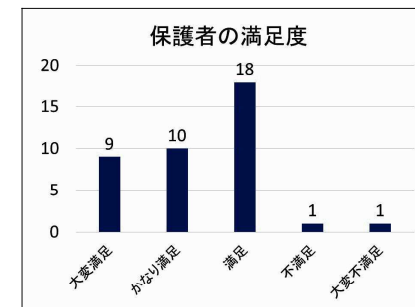
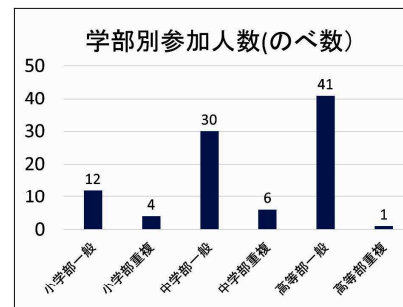
◆次年度も継続の方針

以上の結果から、福祉サービス事業所説明会は、改善できるところは改善し次年度も継続した方がよいと判断できそうです。

なお、改善には、福祉サービス事業所の皆様の声も反映させるべく、参加事業所向けアンケートを実施中で、年度内にとりまとめる予定です。次年度もご期待ください。

【事業所アンケートより抜粋】

「保護者の方と直接施設に対する疑問や要望についてお話しできる機会は大変貴重であり、事業所側としても、今現在求められているニーズの生の声を聞かせていただきとても参考になりました。（生活介護事業所 サービス管理責任者）」



【編集後記】障がいのある人たちの生活は、誰か一人が支えきれるものではなく、様々な人たちの連携が欠かせません。保護者の皆様には、お子様の今や将来を託せる支援の担い手をじっくりと見極めておく必要があります。福祉の情報をたくさん得て、上手に判断したいものです。（谷口）

